

答申書（素案）

1 総括的事項

当該事業は、超々臨界圧条件下における高効率化を目指した世界最大級のバイオマス発電所の建設計画であり、地球温暖化対策に寄与するものとする。事業の実施にあたっては、周辺の環境に十分配慮するとともに、事業の影響を受ける関係地域の住民へ丁寧な説明を行うこと。

2 個別事項

(1) 排出ガスについて

排出ガスの組成は、バイオマス燃料の種類により異なることから、燃料の産地及び量、性状を明らかにし、適切に予測・評価すること。

【資料 1－No. 3, No. 26】

(2) 排水について

当該事業に伴う排水の排出先は、COD の環境基準が未達成な新潟東港の海域であり、事業排水の排出にあたり一段の配慮が必要な海域である。温排水による海域の温度変化、取放水の流動に伴う海水の移動等を踏まえ、当該水域の水質及び動植物への影響について適切に予測・評価すること。

【資料 1－No. 4～No. 8, No. 27, No. 28】

(3) 温室効果ガスについて

事業全体として温室効果ガスの排出に留意し、可能な限り温室効果ガスの排出削減に努めること。

【資料 1－No. 19】

(4) 生態系について

海外からのバイオマス燃料の輸入においては、意図しない外来種の混入が懸念され、地域の生態系に重大な影響を及ぼすおそれがあるため、このようなリスクに十分配慮すること。

【資料1－No. 11～No. 13】

3 その他事項

環境影響評価方法書の作成にあたっては、文章や図の作成において工夫し、わかりやすい図書となるよう留意すること。